

別紙

生涯活躍のまち整備事業地域再生協議会開催についての意見等

1 新型コロナウイルスの感染拡大から書面会議になったことはやむを得ないが、今回からの新規参加者としては、資料送付だけの書面会議では、ほかの委員との面識も意見交換の機会もなく、これまでどのような議論があったのかもわからないので、少々戸惑っています。

他の同種委員会や協議会（かわ・まちづくり協議会、介護保険事業運営委員会等）は12月15日以降の対面開催をホームページで公開しているので、新型コロナへの対応の推移もあるが、できるだけ速やかに対面議論する協議会を開催してほしい。

なお、当協議会は自治基本条例・市民参加条例で公開、公表されるべき付属機関に準ずるものであると考えますが、市の公式ホームページで当協議会の開催が示されていません。書面開催で傍聴ができない場合であってもその旨を記して開催を市民に周知すべきものはありませんか。また、開催結果だけでもホームページに掲載して市民に知らせる必要があると考えます。

2 生涯活躍のまち形成事業計画、事業実施計画も確定し、推進している段階にあり、主要なメンバーほとんど再任だから支障がないのかもしれませんが、今期の委員に何が求められているのか、意見等がどう反映されるのかよく解らないので、今回初めて参加した者にもわかりやすく丁寧な説明をお願いしたい。事業計画を承認し、事業の推進にあたるだけでなく、新規の委員として申し出る意見やアイデア等も検討され、事業の推進に反映できるものであってほしいと願って応募していますので、配慮願いたい。

3 事業計画の修正をともなわないでも展開可能と考えられる取り組みを次に示すので協

議会における検討対象にしていただきたい。

(1) 密接な関係者として当協議会に参加している団体機関のほかの活動機関団体等（「高齢者クラブ連合会」「ボランティア連絡協議会」「介護保険包括支援センター」「保健センター」「いきいきセンター」「市民活動促進センター」等）を「関連組織」として位置付け、ネットワーク化を図ることで多様で幅広い参加が期待できる。

(2) 「パン工房」での江別産小麦や牛乳の使用、「レストラン」での江別産の野菜や麺類、豆腐・納豆等を提供することにより、地域の産業とのつながりが強まり、障がい者やアクティブシニアの就労機会にもつながる。

(3) 道路行政・都市計画行政の協力を得てココルクに至る道路に「ココルクへの道」「ココルク・ロード」のようなネーミングで存在をアピールする。

(4) ココルクから大麻東中学校の間の4番通りの歩道は、札幌や石狩平野、手稲山や昇寒別連峰を展望できる素晴らしい景観を持っているので「ココルク遊歩道」と名づけて、ココルク人そ者の散策、運動に活用するとともに、大麻東中学校との交流に生かすこともできる。

なお、12丁目通と4番通の交差点に信号機の新設、歩道との段差解消も必要であるが、市の道路行政の中で考慮が可能でないか。

(5) 事業実施計画の中で機能訓練施設は十分でないようだが、ニーズはあると考えられるので、今後の施設整備を考えるか、近隣の施設との連携で対応することを提案する。

4 ワークショップからの提案については、開設までに間に合わせることは難しく、協議会の中でこれから検討することに賛成します。時間が必要と思われる案件が多いが、提案者に参加してもらって話を聞くなどその提案・活動を大切にしたい。